

11.28 全国大会パネルディスカッション 総括(内容、ご意見等抜粋)資料案

メインテーマ 「地域における建設業の果たす役割とは、そして「地域に必要な建設業者となるためには、

(目的) 地域にとって本当に必要な社会資本整備と建設業者の役割とは何かについて、如何に見出ししていくかあたり、地域社会から何が求められているのかを探るために、各地域でマスコミ関係者の方々との意見交換等を実施。
その結果の、例えば、地域建設業者の地域の中での必要性は認識されている。しかし、厳しいのは建設業だけではない。透明性を高める必要がある。情報発信を積極的に行ない、外部からの意見を取り入れて、変わっていくことが必要。社会資本整備のシステムも地域の声が反映される仕組みに変わっていくなければならない等のマスコミの方々他からのご意見を一般社会からの認識として捉えて、地域建設業者として、「地域での果たすべき役割」、「地域の必要性を伝えるためには」について、議論のなかから、明るい材料を搾り出していくこと。

テーマ1 現状と担っている役割について

青年会議からの報告	<p>社会資本を整備、管理するパートナーとしての役割、防災のパートナーとしての役割 東北ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に生き、地域を理解し、地域を愛する技術集団として東北の地域づくりを支えている。 ・東北地方は、地震や豪雨、豪雪、津波など自然災害が多い地域 地域のテクニカルアドバイザー(日常の巡回活動を通じて 地域を熟知している物知り博士・技術者、資機材を保有。行政機関との「災害時における応急復旧対策に関する協定」に基づく活動) ・命がけの活動を国民に理解して頂く取り組みが必要。 <p>防災のパートナーとしての役割 北陸ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪雨による河川浸水災害・復旧支援活動 情報共有・連絡体制の方法(課題)の拡充に向けて更なるパートナーシップをはかっていく。 ・他、地震災害支援活動を報告(廃棄物の分別・運搬、倒壊ブロック塀の撤去、生活必需品の補給。)
議論の切り口	地域建設企業の災害時の支援活動内容が一般のメディアにはほとんど報道されないこと。
マスコミ等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊が派遣される前、初動で活動しているのが、建設企業であるということは、伝える意義がある。 ・自衛隊や消防の活動を報道するのは、復旧作業の規模や進展を伝えるために必要なものでしているだけで、持ち上げるためではない。 ・建設業界側はストーリー性を持たせ、広報する体制(動員数、重機配置等をその場で広報出来るようにする等。)を整えるべきだ。
意見をまとめて(総括)	上手く報道をして頂ける媒体作り等、組織的な対応が出来る体制づくりを考えていく必要がある
青年会議からの報告	<p>各地域建設業の厳しい現状 九州ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい予算により安全対策等に影響が生じ、事故が発生していること。 ・労務単価低下の推移、価格(ダンピング)競争で生じる悪影響。 ・地域建設業界の動向(災害協定破棄、建設関連産業危機突破総決起大会。)
議論の切り口	災害協定破棄の問題に関して *建設産業の内部的な変化(厳しさ)によって、災害時の支援活動に協力する会社が減って来ていること
マスコミ等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・災害協定はあっても、ビジネスにならないものには、場合によってはNOということも大事。 ・契約を結んだ中で、問題点(これだけの経費が必要等。)はキチンと伝えて、抗議をすることが重要。 ・災害協定は一般的には知られていない。もっと上手く情報発信していく必要があると思う。
意見をまとめて(総括)	何が問題で、何を要求すべきかを明らかにするストーリー作りが大事。 自分達が行なっていることをキチンと伝えるということ、原点に戻って考える必要がある。
青年会議からの報告	<p>地域コミュニティのパートナーとしての役割・総括 四国ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域建設業者は、地域コミュニティのなかで、地域社会が豊かになってこそ、自らも共に発展していけるとの想いで、地域社会の一員として、地域の人たちが、快適、安全に暮らしていけるよう努めてきた。 ・非常に厳しい経済状況、時代背景の中、地域に根ざし、地域のことを一番よく知り、社会インフラの防人となる、地域建設業者がいなくなるといふ真剣、迅速に対応してゆかねばならない。
議論の切り口	建設業が、地域社会のパートナーに成り得るかどうかについて
マスコミ等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域建設業の持つポテンシャルは、単に機械を持っているとか、技術力、施工力だけでは無く、地域内をコーディネートする力。 ・国民(ユーザー)が何を考え、必要としているのかを研究して、スローガンから市場調査等の戦略を立てて取り組んでいくことが重要
意見をまとめて(総括)	公共工事では、マーケティング、デザイン、仕様決定等は全て発注者側が行ってきた実態から、建設業界は、発注者の方を向いてきた。この点、どのように変わっていくべきなのかについてはテーマ2で議論する。

テーマ2 地域建設業者の有意性を活かして地域のニーズを伝えていく方向性

青年会議からの提案	<p>地域での役割の評価も含めた競争環境へ - 「総合評価方式」の理念と課題 - 中部ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格のみ競争のメリット、デメリット ・価格競争のメリットを享受しつつデメリットを補う必要性 ・価格・技術(品質確保等)・地域(防災対応力等)の評価のバランスの取れた総合評価方式での入札制度設計へ
コーディネーターからの話題提供	<p>諸外国との事業(プロジェクト)遂行前提の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の建設産業のプロジェクト遂行の前提は、一言で云うと「相互機能の連携」である。つまり、発注者の持っている機能と、受注者の持っている機能を連携させて業務を遂行していくこと。一方、日本の建設産業のプロジェクトの遂行前提は「管理する側とされる側の関係を明確にすること。この相違が、建設産業の色々なシステムに表れてくるのではない。 ・相互連携は、遂行実態が「馴れ合い」とならないように、契約条件を両者の間にしっかりと位置付けて、権利と義務を明確にして、第三者の介入ということも入れて、透明性を確保すること。 ・日本においても、これまでの発注者と受注者の二者構造では対応が難しくなっており、相互連携のための契約約款を整えていく必要がある。

議論の切り口	建設産業が置かれている環境に付随したシステムに関して
マスコミ等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価方式は良いと思う。導入にあたって、コストも当然必要になると思う。一般社会も、安かろう、悪かろうではダメなのは分かっている。透明性を高めたくて、知識のある第三者(お目付け役)からの評価があれば、国民も納得すると思う。 ・入札総額で決まることは、すごい制度。総合評価方式は、金額だけでなく、如何に分かり易く何を基準に企業を選んていくのかということが、行政に求められているのだと思う。 ・国は、膨大な金額のものを委ねられているにも関わらず、総合評価方式等、新しい制度を執っていること等、国民はその中身をほとんど知らない。ここは重要な点。説明が不足していることは反省しなければならないと思う。
意見を受けて(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ・国民が分かり易いシステムを執り、それをPRしていくこと。 ・情報発信のためマスコミとのコラボレーションは重要であり、行っていかなければならないこと。
青年会議会からの提案	<p>防災パートナーとしての役割の今後のあり方についての提案 東北ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に生き、地域を理解し、地域を愛する技術集団として、災害発生時には、迅速に被害拡大の防止と被害施設等の早期復旧活動を図り、地域住民の生命と財産を守ることが、災害時における建設業の責務。 ・直近の岩手・宮城内陸地震時においても、重機運搬路造成のための用地交渉を地権者45名の了承を得て対応した他、地域建設業者で無ければ出来ない対応を図った。 ・情報の共有化、会員企業の体制の確立、指揮命令重複時の対応、マスコミ対応、応急復旧工事の契約のあり方等、これまでの対応での課題を踏まえ、より良い体制を構築していく。
有識者等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時と捉え、随意契約等も執っていく。実態に即して考えると、破堤した堤防を直ぐに復旧しなければならない場合に、手続きを行なっている猶予があるのか、ということに尽きると思う。
意見を受けて(総括)	緊急対応の際は、通常事業とは別立てで、フレキシブルに対応を行っていくことを共通認識。
青年会議会からの提案	<p>建設業の参入促進による林業改革モデルプロジェクト 中部ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設業の現状(公共事業縮減による地域建設業の疲弊・建設業就業者、機械の余剰他)、林業の現状(労働者力の減少と高齢化、流通と加工コスト問題他) ・森林管理に対する人手不足に建設業の人員、技術並びに機械の活用し、人手不足で手入れが行き届かない山林再生を、森林組合と建設団体が協働実施。 ・基幹産業としての林業、建設業の活性化。新たな林業経営システムの稼働と担い手確保により健全な森林の増大を図った。 <p>地域インフラ整備を地域の団体を通じてのお手伝い「地域建設業者の得意技」 中部ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日照が品質に大きく影響する温室みかん園をまたぐ、バイパス建設工事区間での温室ミカン農家に対する日陰地問題が、市としての日陰地買収が財政難により困難となった。 ・地域の商工会議所を通じ、専門業者としてのノウハウや地域建設業者としての、地盤・看板の有意性(進出企業の紹介、開発計画の策定、当事者の利害調整等)を活かして、農業振興地でも立地できる先端技術企業を打診し、日陰地に自動車関連の製造設備自動化ロボットの工場を建設することを導き、日陰地問題を決着させ、バイパスの全線開通をサポートした。 <p>地域の必要性の声を新たな普請や整備につなげる取り組みの提案。 四国ブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に必要とされる建設業へ転換していくには、地域の状況を熟知し、それを施工に活かせるスキルを使って、地域の実態に沿った社会インフラをマネジメント出来るようになる必要がある。 ・1つの考え方として、身近なところで、周辺住民の声を聞き、自ら持っているノウハウで改善出来ると思える、交差点(危険箇所)に、交通弱者のための待機場所を、休耕田を利用することで設置する事例を提案。 ・このプロジェクトは、現状の建設業の非常に厳しい受注状況を、抜本的に改善していけるものではないが、地元の見解を吸い上げて、形にしていく(出来る)スキルを磨いていくことは、地域からの信頼に裏付けられた、マネジメント力が競争の要件・選別の決め手に繋がり、地域にとっても、地域建設業者にとっても、将来に向けた1つの方向性であると思える。
議論の切り口	地域建設企業は、どのように地域に貢献し、活路を見い出していくのか
マスコミ等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今までやったことがないから。と云っていたのでは生き残っていけないと思う。とにかく、ニーズがどこにあるのか。ニーズを読み取って、それを適えられるように何をするのかということ。 ・災害が起きたときに、情熱をかけて地域を守っているという企業が生き残っていくことは、非常に必要だと思う。地域での役割。それを続けていきたいという思いもわかった。 ・マスコミ関係者との付き合いを「平時」と「有事」に区別すべき。災害の初動対応を行った建設業者にインセンティブが働くような制度設計も考慮頂きたい。
意見を受けて(総括)	<p>建設産業は悪い部分を是正していかなければならない。同時に、良い部分を正しく情報発信していくことが必要である。</p> <p>各提案は、地域建設企業でないとは出来ないこと。発注者と受注者の機能の統合という形を具現化した取り組み。この、建設業としての新たな取り組みを、より良いものにしていく、広げていくために、今回の試みでの共通認識をお付き合いのきっかけとして、各地域で交流(議論)を続けさせて頂きたい。</p>

第13回 全国建設青年会議 全国大会次第

11月28日(金) 経団連会館 11F 国際会議場 東京都千代田区大手町1-7-2 TEL 03-5204-1500

13:00 開場・受付開始

大会 13:30～18:05 11F 国際会議場

1.主催者挨拶 四国建設青年会議 会長 二神 一誠

2.来賓紹介

3.来賓挨拶・ご講演 国土交通省 技監 谷口 博昭 様

4.各ブロック代表者とマスコミ関係者によるパネルディスカッション 14:30～17:45

メインテーマ 「地域における建設業の果たす役割とは、そして「地域に必要な建設業者となるためには、

1) 趣旨・各ブロックでの座談会実施等の報告。四国建設青年会議 副会長 姫野 敬行

2) コーディネーター、パネラーご紹介・ご登壇

3) パネルディスカッション

(1) テーマ1 現状と担っている役割について

建設業の役割...社会資本を整備、管理するパートナーとしての役割 東北ブロック

建設業の役割...防災のパートナーとしての役割 東北ブロック、北陸ブロック

報告後、意見交換

各地域建設業の厳しい現状 九州ブロック

建設業の役割...地域コミュニティのパートナーとしての役割と総括 四国ブロック

報告後、意見交換

(休憩)

(2) テーマ2 地域建設業者の有意性を活かして地域のニーズを適えていく方向性

現在、担っている役割を、より地域の必要性を踏まえ、続けていくため、防災活動・地域貢献等で努力している建設業者が、総合評価方式において、又は新たな仕組みの中で生き残っていけるための考え方を提案。

地域での役割の評価も含めた競争環境へ - 「総合評価方式」の理念と課題 - 中部ブロック

報告後、意見交換

防災パートナーとしての役割 の今後のあり方についての提案 東北ブロック

報告後、意見交換

地域建設業者が持つノウハウを活かした新たな取り組みの提案。何が求められているかを、地域の中で議論をして形にしていくために、自ら出来る行動についての提案。

-1 建設業の参入促進による林業改革モデルプロジェクト 中部ブロック

報告後、意見交換

-2 地域インフラ整備を地域の団体を通じてのお手伝い「地域建設業者の得意技」 中部ブロック

報告後、意見交換

地域の必要性の声を新たな普請や整備につなげる取り組みの提案。 四国ブロック

報告後、意見交換

5.大会宣言(成果) 四国建設青年会議 全国大会 実行委員会委員長 富田 隆弘

6.国土交通省からの講評 大臣官房 技術参事官 下保 修 様

(閉会)

7.28「全国建設青年の日」にちなんで、各地域の啓発・広報等の取り組みを展示コーナーで紹介